

県 中 広 報

事務局発行 (E-mail : h34@ken-chu-hiroshima.nss55.net)
 令和7年6月6日 (http://www.ken-chu-hiroshima.nss55.net/)

本年度会長に、河北 光弘 校長（大竹市立大竹中学校）選出

令和7年4月11日（金）に常任理事会が開催され、本年度の本部役員候補者の選考が行われました。その後の理事会において、次の方々が本年度の本部役員として承認され、決定しました。

会 長	河北 光弘（大竹市立大竹中学校）	副会長	小原 正啓（尾道市立瀬戸田中学校）
副会長	河本 英希（呉市立吉浦中学校）	副会長	郷地 忠幸（東広島市立八本松中学校）
副会長	谷本 昌宏（福山市立神辺中学校）	副会長	住岡田 浩（庄原市立東城中学校）
会計監査	沖本 直樹（安芸太田町立加計中学校）	会計監査	住岡田 浩（庄原市立東城中学校）
事務局長	林 健太郎（安芸太田町立安芸太田中学校）		

また、会長の委託等により次の方々が本部役員及び事務長に決定しました。

事務局次長	友瀧佳司之（福山市立鞆の浦学園）	幹 事	三谷 晶子（東広島市立河内中学校）
幹 事	荒本 礼二（呉市立倉橋中学校）	幹 事	木村 健二（廿日市市立野坂中学校）
幹 事	立田 晃（東広島市立磯松中学校）		
事務長	石井 博基		

本年度基本姿勢 「主体 信頼 挑戦」

河北 光弘 会長 あいさつ（概要）

1 はじめに

広島県公立中学校長会の目的（広島県公立中学校長会規約第4条）

本会は、県内各組織団体が緊密な協調を保ち、校長としての職能の向上と教育の振興発展を図り、もって平和な文化国家の建設に寄与することを目的とする。

2 基本姿勢の言葉に込める思い

主体：視座を高く持ち、自分事として捉え、今、ここでできる最善のことを実行していく

信頼：信頼の回復、そして、信頼を基盤として、共に支え合い、学び合い、高め合う

挑戦：子供たち、教職員の未来のために、失敗から学び、挑戦し続ける姿勢をもつ



3 令和7年度の活動計画から「活動方針」

(1)「県中教育ビジョン」に示された5つの柱を基盤として、諸課題の解決に向けて着実に徹底して取り組む。

①教職員の人材育成と働き方改革 ②「主体的・対話的で深い学び」の創造

③キャリア教育の充実 ④生徒指導の充実

⑤学校・家庭・地域との連携・協働による教育活動の充実

(2) 連携・交流を基盤とし、全会員の結束を強め、共に支え合い、学び合い、高め合いながら、その力を結集し、見通しを持って教育改革を更に推し進める。

(3) 令和6年度の四専門委員会の提言内容を踏まえて重点的に取り組むとともに、研究内容の一層の充実を図り、組織として提言ができる校長会を目指す。

(4) 校長としての使命を自覚し、倫理観を高め、自己研鑽に努め、学校の自主性・自律性を確立するとともに、不祥事の根絶を目指し、県民の信頼に応える中学校教育の創造に努める。

(5) 教育関係機関等との連携を密にし、「広島で学んで良かったと思える 広島で学んでみたいと思われる 日本一の教育県の実現」に努める。

(6) 広島県公立中学校長会の組織運営体制の機能化をより一層図っていく。

4 おわりに

校長会の目指す姿：安心して悩みや失敗を共有し、励まし合い学び合う場を創る。

学校からの教育改革：教育現場の声を集約し、施策に反映するため関係機関と協力。

第1回理事会

令和7年4月11日(金) 東区民文化センター

はじめに令和6年度活動報告(案)及び会計決算(案)が検討され、次に役員の変更が行われました。続いて、新会長の経営方針が示された後、令和7年度活動計画(案)及び会計予算(案)並びに大会宣言(案)が検討され、代議員会に向けての準備が整いました。

午後には、県中校長会としての不祥事防止対策について確認した後、各郡市中学校長会の基本方針及び重点取組について情報交換を行いました。その後、広島県教育委員会事務局 義務教育指導課 主任指導主事 宮岡 英明様から「令和7年度の重点施策と校長に期待すること」と題して指導講話をいただきました。各校での「学びの革新」の実現に向けて、「個別最適な学び」と「協動的な学び」の一体的な充実、一人1台端末の効果的な活用、特別支援教育の充実の視点から、具体的なポイントや今後の学習環境のモデル、授業イメージなどを示していただきました。また、学びの革新の深化を支える人材育成として、今年度、人材育成の基本方針の見直しや広島県教員等資質向上指標の改訂を行うことについてもお伝えいただき、今後の学校経営に対する多くの貴重な御示唆をいただきました。



第1回四専門委員会

令和7年5月8日(木) 東区民文化センター

昨年度の実践を踏まえ、今年度の推進体制と活動計画が確認されました。県中校長会の活動の中核としての四専門委員会の組織的活動を充実させ、研究をさらに進めることで、会員である校長の資質・能力の向上を図っていきます。

この日、広島県教育委員会事務局から4名の皆様(義務教育指導課 教育指導監 小池 紘太郎様、同じく 主任指導主事 宮岡 英明様、同じく 主任指導主事 丸山 博章様、豊かな心と身体育成課 生徒指導係長 土田 俊弘様)をお招きし、各専門委員会の研究について御指導をいただきました。



本年度の各委員会の体制、活動内容等は次のとおりです。

委員会	◎委員長 ○副委員長 □県公連委員	◇基本方針 ・主な活動内容
学校経営	◎□奥本 実(大和中) ○□金子 浩之(因島南中) ○□藤山 英人(海田中) □竹谷 浩子(八次中)	◇新たな教育課題等へ適切に対応できる学校体制を構築し、教育の質の向上を図るため、学校経営の諸課題について、校長のマネジメントの視点から研究を推進する。 ・学校経営の諸課題について、特に働き方改革や業務改善に係る調査・研究を行う。 ・学校経営の諸課題についての研修を行う。
教育研究	◎□大島 美紀(白岳中) ○□植中 朋子(因北中) ○□玉里 周二(もみじ中) □岡寺 裕史(廿日市中)	◇「主体的・対話的で深い学び」の深化に向けて、「授業改善」と「評価の在り方」について研究を進める。 ・「主体的・対話的で深い学び」を充実させるための授業改善等についての調査・研究を行う。 ・生徒の成長につながる妥当性・信頼性のある評価の在り方についての調査・研究を行う。
進路指導	◎□中山 勝志(高美が丘中) ○□松田 智広(佐伯中) ○□草本 泰宏(熊野東中) □中島 秀和(宮原中)	◇生徒一人一人に望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるキャリア教育の在り方について研究を推進する。 ・キャリア教育の推進に係わる調査・研究を行う。 ・キャリア教育の事例研究を行う。 ・進路未決定者の状況についての調査を行う。
生徒指導	◎□坂田 正治(向丘中) ○ 小島 弘之(中央中) ○□武 泰平(世羅中) □津田 知明(新市中央中) □脇田 啓治(音戸中)	◇生徒指導の実践の視点(自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成)を生かし、生徒の自己指導能力を高めるための「支える」生徒指導を推進する。 ・「不登校」と「SNS」の研究グループを設定し、調査・研究を推進する。 ・アンケート調査結果を基に、今後の課題を明確にするとともに効果的な実践事例を紹介する。

第75回広島県公立中学校長研究大会広島大会 令和7年8月8日(金)

第76回全日本中学校長会研究協議会香川大会

第59回中国・四国中学校長研究会香川大会

令和7年10月22日(水)~24日(金)